ゆいっこ花巻の

震災被災者への支援活動

平成25年7月9日(火)

震災当初の避難所支援(1) ~日帰り温泉サービス~



片道3時間で着いた皆さんをお出迎え





昼食は手作り料理のバイキング





小さい子3人抱えた家族



「どうかお元気で」泣きながら見送り

3月24日~全7回 500名以上を招待 志戸平温泉の協力を得て、

沿岸避難所の皆さんを大型バスで送迎し、 入浴・食事提供。

被災後未入浴の人々に、支援物資の新品下着を、一人ずつのサイズに合わせて用意。 温かい、品数豊富な料理も、喜ばれました。 食べ切れなかった分は、避難所へお土産に。

震災当初の避難所支援(2) ~避難所生活のサポート~



2011年4月弔いお花見会



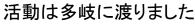


スポ少を花巻に呼んで交流試合



体育館での気功マッサージ教室

大槌町安渡小学校避難所に拠点を置き、「顔の見える支援」を目指しました。 安渡地区では、 およそ8割の住居が流され、 住民の1割が津波で犠牲となりました。 600人以上の皆さんによる、 小学校、神社、お寺での避難所生活は、 最長で5か月続きました。



- ●支援物資の提供
- ●必要な情報の提供
- ●はんこの手配
- ●弔いお花見会開催
- ●炊き出し
- ●ボランティア斡旋
- ●安渡保育所への支援
- ●畑作りのお手伝い
- ●布草履教室開催
- ●スポーツ少年団の練習

・・・その他ニーズへの対応



校舎裏での畑作り



布草履教室

仮設住宅生活への支援(1)~もっちボラ~



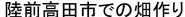




大船渡夢市でのエコバッグ販売、本配布











陸前高田市での花壇作り

震災直後から主に気仙地方に通い続けている「もっち」を隊長に、 毎週1,2回、支援が少ない小規模の仮設をめぐっています。

- ●プランターや、種の配布
- ●支援物資のお届け
- ●畑仕事(仮設の近くに適地を探して、畑作りから始めます)
- ●温泉ツアーの企画
- ●エコバッグ製作のあっせん
- ●大船渡「夢市」への出店

など、「なんでも御用聞き」をしています。 行きつけの仮設のおかあさん達とも、すっかり顔なじみになりました。

仮設住宅生活への支援(2) ~ゆいっこお茶っこカー~







「お茶っこ飲みこそがコミュニティの原点」

大槌・釜石方面の仮設住宅の集会所にて、月数回お茶っこ開催。目的は、

- ●仮設住宅の皆さんに新たな近所のつながりを強めて頂く。
- ●被災地に残る皆さんの話を聞き続ける。
- ●花巻市内に避難している皆さんに地元とつながり続ける機会を提供。
- ●全国から来て下さるボランティアさんを被災地にお連れする・・・・・・等々。 これまでの昼食提供を問い直し、現在、新たなニーズの掘り起こし中。 去年好評だったドラム缶での石焼き芋に、今年も取り組みます。





九州の女子大生たちと仮設の皆さんとの「炭坑節」



焼きたての石焼き芋

仮設住宅・内陸避難世帯支援 ~物資の募集・仕分け・提供~









温泉施設でのご提供



花巻市内、そして全国の皆さんから、数多くの支援物資を頂戴しました。 それらを仕分け、必要な人にすぐ使って頂ける形で、被災者の皆さんの手元に届けました。 舞台裏では、ボランティアの皆さんが毎日毎日大量の物資を丁寧に仕分けました。

- ●日帰り温泉ツアーへ来た避難所の方々へのご提供
- ●一時避難者のいる市内各温泉施設でのご提供(4月28日~全5回、のべ400人来場)
- ●南万丁目雇用促進住宅の入居者へのご提供(5月11日。約80人来場)
- ●無償でお借りした物資倉庫での連日のご提供(5月21日~全9回。のべ1000人近く来場)



日帰り温泉でのご提供

花巻市内への避難世帯のサポート(1) ~イベントの開催~



封筒を付けて お送りしたアンケート



2011年8月沿岸の集い



2011年7月夕涼み会

個人情報を得られないため、アンケートを実施し、 花巻市に避難した280世帯中、約170世帯の実態を把握。 まずは支援物資の提供や、大きなイベントの案内を開始。 月1度の新聞発行も定例化(現在第22号)。

これまで行ってきた大きなイベント 平成23年度 平成24年度

H23. 7 夕涼み会 H24. 5 お花見会

H23. 8 山折り哲雄講演会 H24.

H23.8 沿岸の集い

H23.9 お彼岸の集い

H23.12 忘年会

H23.12 クリスマス会

H24. 2 温泉交流会

H24. 3 追悼行事



2011年8月山折哲雄講演会



2011年9月お彼岸の集い



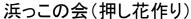
2011年12月クリスマス会



2012年3月追悼行事 「三陸の未来に光あれ」

花巻市内への避難世帯のサポート(2) ~サークル活動のサポート~







昼食風景



男の料理教室

浜っこの会 平成23年秋ごろから、「支援してもらってばかりでなく自分たちで何か始めたい」と 被災者の皆さんによる手芸・料理などの活動がスタート。 製作した手芸品は、花巻市内で沿岸産品を扱う産直「結海」などで販売中。 男性の参加が課題。時節に合わせたハイキング、紅葉ツアーなどで新規参加者募集中。

畑 無償でお借りした畑で、希望世帯が参加し家庭菜園作り。 平成25年度は5反歩の畑を借り、被災地向けの里芋づくりと、様々な野菜・花作りに、25名ほどで奮闘中。

同郷お茶会 沿岸市町村ごとに、月に一度、花巻市内の温泉施設などに集まる。 花巻市の「湯のまちホット交流サービス」利用で、1日1000円程度の会費。

花巻を知る会 故郷への思いを残しながら花巻への定住を決断した世帯の皆さんと、 地元帰還と花巻定住でまだ悩んでいる方とで、お茶会開催。

歩こう会 平成25年春から、月に1回の山歩きを開始。応募多数ですぐ締め切りになる盛況ぶり。



ハイキング



八幡平紅葉ツアー



産直「結海」での手芸品販売

花巻市内への避難世帯のサポート(3) ~各種相談・日常的なイベント~



沿岸ママ&グランマのお茶飲み会





花巻市内観光ツアー

大きなイベントには出て来ない皆さんが、 ご自分の趣味に合った小さな催しに 顔を出して下さることもありますので、 いろんな機会の提供を心掛けてきました

各種相談会の開催

- ●弁護士相談
- ●沿岸ママ&グランマのお茶飲み会

内陸避難の皆さんの引きこもり防止

- ●花巻観光ツアー
- ●農家での援農体験
- ●焼き芋ボランティア
- ●被災地の子供達のキャンプへの参加

市内各団体と内陸避難者の方々との橋渡し

- ●二枚橋「福寿会」の食事会参加
- ●各団体のイベントのお知らせ

•••等々。

車の無い年配者が多いので、 全ての行事・イベントに、 送迎を用意しています



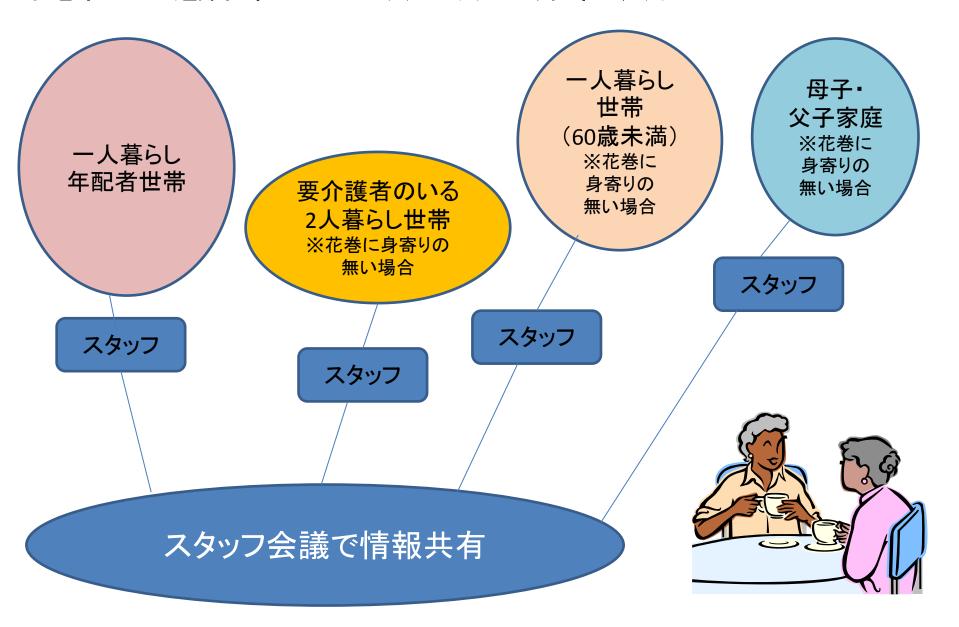
援農体験(里芋掘り)



二枚橋「福寿会」のお食事会参加



花巻市内への避難世帯のサポート(4) ~気がかり世帯の戸別サポート~



「つなぎ役」としての役割



H24.10 事務所併設の 「ゆいっこカフェ」オープン (被災者、花巻市民、全国からの ボランティアが集まる場に!)



HPで、ゆいっこの活動予定をお知らせ 全国の支援者の皆さんに発信しています



全国からのボランティアの受入や 被災地の子供達のキャンプを行う 「とうわボランティアの家」

★花巻に残る皆さんを地域社会とつなぐ

定住する皆さん同士のつながり作り(「花巻を知る会」) 花巻市民とのつながり作り(ゆいっこが必要ない状態となることが目標) 関係機関と連携しながらの気掛かり世帯サポートの継続 自主的活動の支援(サークル活動、ボランティア活動など)

★沿岸と内陸をつなぐ

「風化」の問題に対し、まずは自分達が被災地を忘れずに通い続けるそして内陸の皆さんの中から、賛同者・協力者を増やす努力

★全国の支援者の皆さんとつながる

時間とお金を被災地に向けて下さる方とのつながりを大事に被災地の現状を広めて頂くための情報発信

これまでの活動と今からの課題

これまでの活動を振り返って

- ●被災地・者のニーズに柔軟に
 - ・ニーズがあれば、とりあえず対応できるよう動く。そしてニーズの変化に敏感に。
 - ・反響が少なくても気落ちしない(イベントは「ダメ元」で)。

●顔の見える関係づくり

- 被災地に行くと、「ゆいっこだ!」と言って頂ける。
- ・内陸避難の皆さんとも、支援者・要支援者の枠を越えて、1対1の人としてのお付き合い。
- ●団体が無くなっても続く活動を
 - ・同郷人会は各市町村のリーダー任せ。その他イベントは、企画の段階から内陸避難者も参加。
 - スタッフによるバックアップも、気持ちで続く活動を。
 - ・H25年度は、様々なイベント・サークル活動を、内陸避難者の皆さん主導に変えていきたい。

今後どこまで支援できるか

- ●どこまで支援ができる団体か
 - ・専門性を持たない素人集団。寄付と助成金頼みの会計事情。無償スタッフの過重負担も避ける必要性。
 - ⇒「行政の代わり」は無理、雇用創出までは難しい、確実にできるのは「孤立させない努力」
- ●究極の目標は団体が無くなること
 - 内陸避難者が花巻市民と自然に交流する状態が理想。
 - とはいえ内陸避難者向けの活動に関しては、少なくともみなし仮設が解消されるまでは継続必要。
 - ⇒ 花巻市民の皆さんに、もっと関心を持って頂く工夫が必要
- ●世帯状況に応じたサポートが必要
 - イベントに参加する家は比較的安心。課題は参加しない家のフォローと、緊急時の体制。
 - ⇒ 気掛かり世帯サポートチームによるフォローと、関係諸機関・各地域の皆さんとの連携の必要性

